

## 飛騨農林事務所の普及活動状況（令和6年6月30日現在）

### 今月の重点活動

#### ■夏秋トマト 灰色かび病対策に係る環境モニタリングの運用開始

これまでトマトでは、国の事業を活用したハウス内の環境モニタリングによる灰色かび病等の発生予測や対策技術の検証に取り組んできている。その結果、適期防除や防除意識の高まりにより、灰色かび病やゴーストスポット果<sup>\*</sup>の発生が少なくなった。

このため、今年度からは飛騨野菜出荷組合トマト部会が環境モニタリング装置を設置し、発病リスクが高まったときに警報メールを発信する取り組みを実施することとなった。

農業普及課では、環境モニタリング装置「あぐりログ」の設置や警報メール発信支援を行うとともに、まん延防止につながる葉先枯れ除去の省力化技術の検証も昨年に引き続き実施する。



【モニタリング装置の設置】

※灰色かび病が、収穫近い果実に発生した際に果実表面に現れる径1～2mmの黄白色円形の小斑点。

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■大豆 飛騨市内で播種が進む

飛騨市古川町では、水田で転作する作物として大豆の栽培を行い、これまで地域の水田を守ってきた。

今年は、播種の準備時期に降雨があったものの、6月7日から播種が始まった。播種作業は7月上旬まで続けられ、前年並みの約27ha（品種：里のほほえみ）を作付け予定である。近年増加してきたシカの食害対策や高温による病害虫の発生など新たな課題にも取り組み、10月からの収穫を目指す。

農業普及課では、天候に応じた栽培管理指導を行い、高品質かつ多収な大豆生産を支援していく。



【播種機による大豆播種の様子】

#### ■水稻 各地区で青空教室を開催

「飛騨米」は、米・食味分析鑑定コンクールで数多くの賞を受賞する等、良食味米としての評価が高まっており、本年度も食味の良い米生産を目指す中、6月下旬に青空教室が開催された。

普及指導員、営農指導員及び農薬メーカーが講師となり、いもち病やカメムシ類の防除、肥培管理等、今後の栽培管理について説明した。また、夏にかけて平年より気温が高くなることが予想されるため、熱中症の注意喚起を行った。参加した生産者からは、除草剤の使い方や白未熟粒対策等の栽培技術に関する質問が出され、講師が回答した。

農業普及課では、今後も営農指導員と連携し、良食味米の安定生産に向けた情報提供を行っていく。



【青空教室の様子】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■メロン 飛騨メロン研究会現地研修会

飛騨地域では、気象条件を生かした高品質なメロン栽培が行われており、「飛騨メロン研究会」では、栽培技術の向上や出荷体制の統一に取り組んでいる。

6月20日に、本研究会が現地研修会を開催し、生産者、JAひだ、農業普及課、市場関係者、種苗メーカー等25名が出席し、栽培の現状や今後の栽培方法等について、積極的な意見交換が行われた。

農業普及課からは、定植後の保温管理について指導を行った。

今後、本研究会では、お盆需要に向けた目揃え会や共進会を開催する予定で、農業普及課では、引き続き高品質なメロン出荷に向けた栽培支援を行っていく。



【研修会の様子】

### ■ほうれんそう 中間目揃え会で出荷時の注意事項を再確認

令和6年産のほうれんそうは、春先からの極端な気象変化の影響により計画的な生産が難しく、前年を下回る出荷量が続いている。

6月下旬には、播種の折り返し時期を迎え、各地区において中間目揃え会が順次開催され、出荷規格の確認と出荷物の品質向上に向けた注意喚起が行われた。農業普及課からは、上半期に問題となった病害虫に加え、今後問題となる土壌病害対策や、高温時の栽培ポイントについて説明した。

栽培の難しい夏季を迎えるにあたり、農業普及課では今後も高品質なほうれんそう生産に向けた栽培支援を行っていく。



【中間目揃え会の様子】

### ■ブドウ ジベレリン処理講習会・摘粒講習会を開催

高山市内では近年、若手を中心にブドウを生産する農家が増えている。適期栽培管理を支援するため、ジベレリン処理講習会を6月7日に、摘粒講習会を6月28日に開催し、高山市内のブドウ生産者5名が参加した。

農薬メーカー、JAひだ、中山間農業研究所、農業普及課が講師となり、ジベレリン処理や摘粒方法について講習を行うとともに、栽培技術に関する意見交換を行った。

農業普及課では、今後もブドウの安定生産に向けて栽培技術支援及び情報提供等を行っていく。



【講習会の様子】